

きざりのきざり

NO.18 月刊

第三編 寺院篇 第三号
 昭和三十四年十二月一日発行 (非売品)
 発行所 岡山県都賀郡吉備町庭瀬七〇七字垣方
 吉備 観光 協会

八 覚如山不妻院 (その三)
 教應院殿從五位下前城州英光節礼大居士 寛政九〇年十二月晦日

九 辯空院殿觀月美心居士 室保元辛年十一月十日遊 (妹尾領主三代 達和)
 一〇 豪立院殿覺然了義 室永五辛年十二月十日遊 (妹尾領主二代 正方)

二 清性院殿覺庭内意 聖 延空二甲曆十二月廿八日 從五位下安宣公
 (正安の子庭瀬藩主三代土佐守安宣)

三 物故 月夜清心靈魂 延空四口口口七月上旬十日 (剣形墓石)
 三 從五位下正安 寛文第九己酉曆五月廿二日

四 信城院殿日友尊靈 寛永二乙丑年三月十日 (菅墓)
 (達安の子庭瀬藩主二代土佐守正安)

五 妙法蓮華經 寛永四丁卯年十二月二十五日 不妻院覺如居士
 (庭瀬藩主初代達安の母 秀安の室)
 (庭瀬初代藩主達安) 五轉塔にして法註年月日は地石に刻む

六 (文政九年 達安、正安の遊号の建碑)
 一七 興雲院殿眞覺義應大居士 明和九年八月十日 (撫川領主三代 達恒)

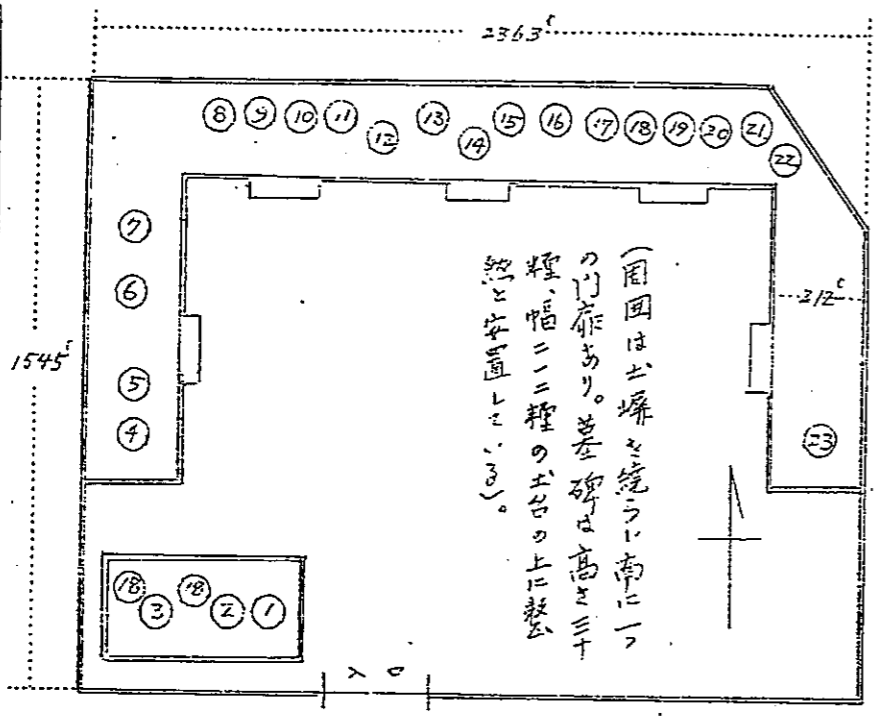
一八 (題目石碑)
 一九 統義院殿宏徳主賢居士享保十四酉年九月廿九日 (撫川領主初代 達富)

二〇 大通院殿從五位下達山道智大居士 寛延元癸亥年十一月十日 (撫川領主二代 達宗)

二一 旧亮院殿淨蓮親照大居士寛政十辛年七月廿六日 (撫川領主四代 達邦)

二二 覺真院殿室池胎蓮大居士文化九年八月廿八日 (撫川領主五代 達義)
 (位牌は五月十日とあり)

三 敬徳院殿義勇日秀大居士 戸川達寛三十三歳卒弘化四年丁未五月廿八日
 △ 戸川家廟所平面図 (撫川領主六代、達義の子、位牌には十八歳歿とあり)



隆盛山蓮塔寺本堂

△ 廟所内に切換した燈籠の軸石数本が轉んでゐる。その一つに「三宅次兵衛」の銘がある。又別の一本には「直徑二十二寸、長さ六十八寸」の銘に

「奉獻燭 寛永義平大嘉雄 宮田茂兵衛重定 石黒伴右衛門正屋 澤 丹治正直 中川善三太信之 結田庄兵衛延清 寛延元癸亥十一月十日」とあり。

○ 不妻院に安置の戸川家関係の位牌

通解院玄仲 (死没年月日なし) 市工丞通久 (境内に伽藍塔がある。)

教正院玄立 寛永十三壬午年五月五日 戸川亦左衛門玄久 (境内に五輪塔がある。)

延寿院玄智 (死没年月日なし)

予指の文を釋くは一筆の拙フに如かず(英國 埋蔵) 六所時代は協力時代である。文明人と野蠻人との間から 所は、他人と共同の協力で行ふと云ふとある。

○岡 七良兵衛延久 (正安年月日在)
(戸川家文書に深高三百五十九石 馬廻り岡辰之助とあるはこの人であろう)

正見院日等 万治二巳年六月十七日
戸川又在三門延令 (境内に五輪塔あり)

(戸川家文書に深高六百石 宗坂領戸川又在三門市之丞とあるはこの人であろう)

信法院日性 寛文四巳年五月廿日
戸川新右工門 妻

眞了院妙林 寛文四巳年六月廿六日
戸川新右工門 娘

夢幻院教信 寛文四巳年九月廿日
戸川新右工門 息

梅嶺院日芳 寛文九巳年正月十日
戸川亦右工門令久 妻

再得院日秀 延宝七巳年四月九日
戸川又在工門延令 妻

静心院玄性 延宝二巳年十二月三日
岡 七良兵衛吉久

(戸川家文書に深高六百石 馬廻り岡辰右工門とあるはこの人であろう)

夏林院日盛 延宝八巳年六月十三日
戸川新左工門唯令

(戸川家文書に深高三百石 戸川新左工門鉄砲足輕三十人持とあり)

義正院理覚 天和二巳年十一月廿九日
富川弥右工門牧久

理玄院妙智 天和三巳年五月廿四日
岡 七良兵衛吉久 妻

(境内に伽藍塔あり)

正受院日玄 貞享元巳年十二月廿三日
戸川又在工門長令 (深高三百石)

(奉堂前夜に破損した五輪塔の地の石のみ残存)

正知院日惠 元禄三巳年六月十六日
戸川又在工門貞令

晴雲院妙諱 元禄十三巳年正月廿日
戸川又在工門貞令 妻

玄收院宗也 宝永四巳年八月廿日
岡 弥兵衛延亮

(戸川家文書に深高三百石持筒五度瀬田人)

梅心一余 享保十七巳年二月六日
富川弥右工門

この位牌は一枚の板碑に記載してある法諱にして庭瀬初代戸川肥右守達安の時代に始まり、撫川領主二代戸川土佐守達宗時代までの九指余年間に向たる戸川家の交流と

して要証の地位にあつた人物と思

はれる。前にも述べたように岡姓は達安の祖母(秀安の母)が寡婦となつて岡惣兵衛勝元と嫁いで居り又岡豊前守元忠(勝元との関係は詳くない)の女が達安の室になつてゐるので深い姻戚関係であつたと考へられる。

備前国主宇喜多家分限帳に家老岡豊前守利勝 高二万三千三百三十石

、組頭 岡市之丞 三千六百五十石とあり。達安等とともに朝鮮の役

に従軍し勤功のあつた勇士である。又富川氏は戸川氏の旧姓であるがこ

れらの人物にソレを系統をしろべる資料は乏しい。

戸川家系譜そのたによれば、正安の姉に「正法院殿日性神尾」(俗名は不詳)

という女性があり、同名戸川又在衛門というものに嫁ぎ、後々事情のた

めに帰居して尾となり寛永二年七月四日に歿してゐる。位牌によれば又

右衛門は数代襲名してゐるので、よく判らぬが年代によつて五輪塔婆

のある「正見院」とこの「正法院」の法諱を對照して考察すれば日性神尾は戸川

又在衛門延令の妻ではなかつたか。と思はれる。しなして位牌には令久

と延令とも室の法諱が載つてゐるので、又右衛門に嫁いだという「正法院」

と一致せずここに疑問が起つてくることになるが「正法院」は寛永二年にな

くなつてゐるので「正法院」は先妻であつて位牌にある「再得院」は後妻とみて

誤りはないと思ふ。

△ 左の文書は妹尾の盛隆寺に傳はるものである。これは六代撫川領主戸川

彈正達義が初代戸川肥後守達安の二百年忌に当り法諱に日号がなく又

達安の室、嫡子正安の法号がなかつたので(遺言によつて) 身延山に願つて追

号を賜つたのである。

文政九西暦十二月二十五日

不変院殿二百遠諱就手相与贈日號矣

不変院殿如日貞大居士

右不変院殿速回之砌西聖授共法号者也

△ 戸川 正藤 源義頼
 達安 室 妙如 日覚 大姉
 達安 孺子 一香 日法 居士
 達安 山久 遠寺 五十七 世 紫賜 沙門 日舜 花押
 達安 の 戒名 に ついて

△ 不変院 覚如 日真 大居士 は「法句經」に
 凡そ世の中に於いて怨みに怨みをわけて酬中れば、いつまでたつても
 静るものではない。怨みを捨てて平和を静に世間を訪れるのである。
 これは不変の真理である。この本来の妙理を悟り得て変らぬこと、又即
 ち覚如である。……に基いて付られたのである。
 板倉家の位牌数基を安置す。

一、深達院 殿 妙照 日淨 大姉 享保十五年十月廿一日卒
 板倉右近(勝興)之御母 君公也
 この位牌は庭瀬藩主二代板倉謙政守昌信の側室京都の人、宮本在兵衛
 と、いふもの女である。勝興、その兄豊之助の二人の生母にして豊
 之助は享保九年五月十六日に生れ、その歳の九月十日夜瀬に夭死し、勝
 興は享保十一年七月十日申刻(午後四時)に生れ、七十一歳の天寿を全うして寛
 政八年七月三日江戸に滞在中に歿して、(勝興は三代庭瀬藩主)母
 の信名、年令は明らかでないが勝興が四歳の時に他界して、(母
 因に昌信の正室は系譜に加藤遠江守藤原茶実の女であるが子もなく、
 離婚したと記してある。
 一、隨法院 好栄 日仙 大姉 昌信の妹 名は栄 元禄十六癸四月十八日
 に生れ、享保五年癸九月十三日 五歳にして庭瀬に夭死し、不変院に葬る。
 一、華台院 永芳 童子 昌信の弟 名は鉄五郎 正徳二年癸四月十
 八日に生れ、同三癸八月十五日二歳にして庭瀬に夭死す。不変院に葬る。

一、明德院 幻化 知光 大童子 勝興の兄 名は豊之助 不変院に葬る。
 一、その他昌信、勝興の位牌もあるが、これは松林寺佛堂屋の位牌の法證
 と同じである。松林寺は臨濟宗にして板倉家の新願寺であつて累代の
 藩主の位牌を安置して、昌信、勝興二代は日蓮宗に帰依して、
 たのである。
 以上三人の墳墓は系譜に書いてあるが、今見当らず、後世他所へ改葬
 したものであろう。
 主なる戸川 板倉 両家臣の位牌と墓碑
 一、城戸家の位牌
 一、城戸一壁居士 宝永三丙戌歲七月十七日 (土東院に墓標あり)
 (板倉家の家臣 寺社町奉行三十人扶持 城戸千兵衛)

△ 月間院 智桂 大姉 (土東院に墓標あり)
 △ 本立院 宗休 日信 居士 宝曆十二癸二月二日 (俗名 城戸治兵衛 祖禪)
 △ 容親院 妙奇 日照 大姉 享保二十乙卯歲五月十八日 城戸氏
 △ 隨義院 妙休 日実 大姉 明和二乙酉天 八月十八日 (不変院の墓地に墓標あり)
 △ 梅月 妙薫 宝曆五乙亥歲 二月六日 城戸氏
 △ 龜足 軒其 流道 悟 明和五乙卯天 十一月廿四日
 △ 善香院 妙悟 天明八丙申歲 十二月廿四日

△ 梅香院 了壽 信士 享和二乙未年正月廿三日 城戸三郎右衛門源祖寬の両親(城戸三郎右衛門源祖寬)
 △ 華香院 妙壽 信女 天保十一庚子年五月廿六日
 △ 本深院 実成 日修 居士 享政六乙未年七月十八日 北行年六十五才 城戸三郎右衛門源祖寬
 △ 源達院 妙修 日実 信女 明治三庚寅年正月廿三日 北行年六十七才
 (龜足軒は板倉家侍臣に即代並に町奉行三十人扶持 城戸三郎右衛門とあり)。
 石州邑知郡上村産出口清五郎也故有城戸三郎右衛門祖寬役合人
 俗名を十一子に無之

喝門院無着居士
初禪院宗受日輝居士

戒定院妙受日憲信女

智註宗遊孩子

眞應院快心居士

眞月院德光居士

眞實院勅道日猛居士

孝順院妙奉日風大姉

大智院勇精日道居士

傳習院妙勤日中大姉

善心院暹道信士

賢功院竹鳩日修居士

眞實院妙清日操大姉

積功院累徳日滿信士

積善院妙徳日潤信女

久速院眞道日祐居士

眞如院妙篤日達大姉

智深院妙貞日宏大姉

眞岩院秋峰日珠居士

眞冥盛院判應 靈位

本覚院玄智日善 靈

明治八年亥二月五日 城戸氏 俗名 武平治
明治十丁卯年八月七日六十歳卒 (叔倉家侍帳に御近習給人十石三人扶持)
(逆修) (大森院に墓標あり)
明治十二年四月二十四日 行年七十歳 城戸氏
明治十四年八月廿四日 行年七十歳 城戸氏
昭和九年六月二十四日 行年七十八歳 城戸氏

天保三壬辰歲七月十有六日 関原権平政均
弘化三丙午歲六月二十二日 又レ (政均の妻か)
天保四癸未歲十一月五日 関原治左工門政富
(逆修) 安政三己未歲六月十三日行年七十才俗名勇井守術家中森川之志
明治十二年七月十六日 関原虎雄 (三門娘政富の妻)
明治十四年九月廿一日 関原功政使か
明治二十七年九月廿九日 関原氏
明治三十四年十一月一日死 関原氏

明治廿五年辰年八月四日 関原氏
(逆修)
大正元年九月廿七日 南中成羽土白講造之長女俗名関原
元崇 享年二十八才
大正十二年八月廿四日 関原政二 行年四十七才
元禄十七日午歲正月八日 俗名関原勘右衛門
享和三癸七月十三日 関原治左衛門

本覚院妙智日法

見受院秋應日誠信士

理照院妙應日文信女

露涼院妙証信女

妙法老月院長仙信士

関原家は板倉家の家臣にして元禄十六年の侍帳に謀高十石 勤定方

関原勘右衛門とあり、明治二年の改帳には御年寄謀高百石 関原 功政

使とあり重賑の家筋である。

○ 鈴木家の墓標

秋老院田信育進居士 鈴木孫平治 正徳三癸天八月廿四日

月應院殿智月妙鏡大姉寛保二壬戌天四月十一日 孝子 鈴木舎人政興

勇猛院諱内慈巖日萃居士 寛保三癸天六月四日 俗名 鈴木政職

誠善院妙有日能大姉 享保元丙申天一月十八日 孝子 鈴木孫太郎政躬

普照院顯免了達居士 室永五戊子天四月二十三日 俗名 鈴木運八郎政永

智法院田光妙惠大姉 正徳元辛酉歲十月下旬六日 俗名 鈴木運八郎政永

秋葉院露幼童子 享保九甲辰年六月廿一日 母小畠氏

城戸氏 俗名 武平治

等親の杖老院は鈴木孫平治正証といひ、元禄十六年の杖倉家侍帳に「高三百石家老格にレテ、譜代の臣である。恭應元年から当年まで五十二年間動仕レ後、隠居して七年後の正徳三年に庭瀬の屋敷に死去した人である。年齒は不詳であるが、恐らく七十歳以上の高齡で逝去したと推定せらる。明治二年發藩の家臣帳に御用人五十石鈴木傳右衛門とあるは、この後裔である。

- 宮本家の位牌
- 弘誓院妙修日行信女 安永四乙未天正月九日 宮本氏
 - 紅顔院妙英童女 天明八戊申年九月廿一日 宮本氏
 - 隨法院妙靜日厚大姉 文化十丁丑年九月十三日 宮本氏
 - 貞松院妙清日治大姉 文政二己卯歲十月廿九日 宮本氏
 - 緑了院妙因日種大姉 文化四丁卯年十月十日 宮本氏
 - 瀧法院悦道日悟居士 天保六己未年閏七月十日 宮本氏
 - 千葉院妙達日榮大姉 嘉永五己丑年七月廿二日 卒宮本氏 俗名 枯女
 - 花岳院妙葦日浩大姉 嘉永七丙寅年二月九日 卒宮本直之助藤原元明妻清喜
 - 義山院軍記日忠居士 安政四丁己正月十日 宮本軍記藤原恒徳 俗名 成右
 - 文明院後貞日仁居士 安政五戊午十月十二日 卒宮本 勇 行年十五才
 - 飯元鈴響院快流居士 二代目安政六己未年七月廿三日 卒宮本氏
 - 武貴院祐弘日泰居士 文久三癸亥年六月十八日 卒 宮本氏
 - 信受院妙清日行大姉 明治十九年戊子十一月廿日 卒 宮本氏
 - 誠心院妙貞信女 明治二十八年九月廿六日 卒 宮本氏
 - 丹寂妙心院統良居士 宮本家の墓標

隨縁院常仲日学信士 寛保三癸亥天八月廿日 俗名 宮本多仲保富
 信受院妙清日如信女 寛保三癸亥天十一月十一日 施主 宮本喜办
 論量院美直日壽居士 文政五己丑歲二月六日 殞 宮本 越殿右衛門恒徳之又
 宮本家は三代藩主杖倉右近勝興の外祖父に當る。京都の任人宮本庄兵衛
 から出た家柄にして杖倉の右庭瀬に移封した元禄年間侍帳にはその姓
 及び元子、始めは享保十六年の記録に「高六石宮本庄兵衛」とあり、庄
 兵衛との関係は明でないが、子孫に於て勝興の時代に仕官した人物であ
 る。前記の位牌、墓標の系統は詳々でなく、明治二年の分限帳に「御近習
 結人並取扱(高不明)宮本連次郎」とあるは、いづれもその末葉であろう。屋
 敷ありとは邸内の裏門の編を渡つて西へ、追分道に出る南角で今は「アール
 ばかりの田圃になつてゐる」といふ、地城である。

○佐野家の墓標

本府院宗真日住居士 享保十六年十一月十二日 俗名 佐野十郎左衛門
 長遠院妙了日久大姉 宝曆十三壬午天九月五日 (位牌あり)

本府院は杖倉家の家老にして元禄十六年正月十六日改め帳に
 「禄三百石 老 佐野十郎左衛門 貞享元年八月十四日より当年まで二十年」とあり。
 杖倉家の重臣であるが享保十四年の侍帳に佐野姓がみえない。十郎左衛
 門の死は侍帳書付日の二年後にレテ、年令はわかろないが、病氣か或は老齡
 が死んで要暇の地位を辞して隠居したもので思はれる。レみれ全然佐野姓
 が載つていない、果を考へれば絶嗣したのではなからうか。

○横田家の墓標

横田政明之墓

政明性横田稱小右衛門丸川志定也季子也横田政成之為養子家世純善焉
 居于九名政明為人恭儉而有裁量治山邑十有三年官事無過矣上堂其功著
 為憲官使居于撫川班宣政令使民病利百姓歎服焉在職二年文化八年三月
 月十七日卒享年四十有四送極迎派追福之口從浮國氏謚遠了院定心日滿
 居士葬于九名(川上即日里村)先嚴之側撫川民痛惜如喪老妣於是立碑春秋祭祀
 以時思之矣

横田武右工門盛幸行年五十有九 文久二年歲九月五日卒

源入院妙淨日定大姉 天保三年十月十三日 (政治の妻)

良修院宗吉日淨居士 明治六年四月十六日 横田小右衛門政治之墓

良川院妙香日烈大姉 明治五年十月廿四日

之、五十數甚あり、横田家は撫川鎮主戸川家の家臣にして、文徳三年丸
 月戸川家の始祖山城主戸川肥後守秀安の御霊屋を常山の麓に建立して
 時の記録に

惣名垣、姓名、被名、石橋の善請に戸川万藏(撫川鎮主達野)御家臣、石黒宗定安、横田圃次盛展
 當手兼信實、の三名の家臣をあげた、戸川家の重臣である、宗了院

芳毅院妙相日實大姉 寛政十一年四月七日 横田圃治の祖母

合掌院妙慶日道大姉 嘉永三年九月一日 横田正右衛門の娘

冥應院了慶日欣居士 元文三年十月十一日 横田圃治盛展の妻

勇猛院忠進日勤居士 安政二年九月廿七日 横田定兵衛の父

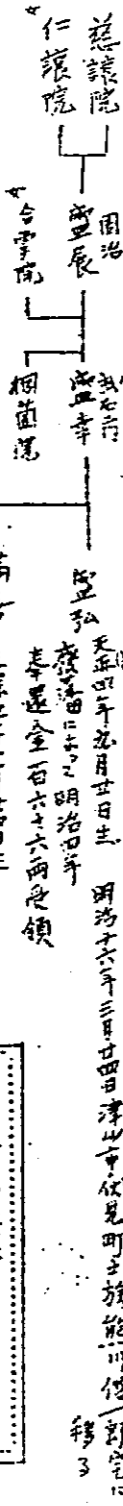
仁讓院妙光日仙大姉 文政十二年十月廿八日 横田熊治郎盛純

以信院妙忠日代大姉 天保十四年九月廿九日 横田圃治の母

貞老院智旭 靈 文政七年十月十三日 横田雄右衛門の妻

安永四年八月十三日 横田正右衛門の伯母
 嘉永二年九月九日 横田雄右衛門盛良
 土政六年九月十九日 横田圃治の娘
 天保三年十月十三日 横田小右衛門(政明)の妻
 文化十三年五月廿五日 横田圃治の父
 文久二年八月十三日 横田圃治盛展
 弘化二年八月十三日 横田圃治盛展
 明治八年三月十日 横田圃治盛展
 明治五年九月二十二日 横田圃治盛展
 明治廿八年八月廿二日 横田圃治盛展
 昭和三年三月十五日 横田圃治盛展

御照院妙淨 靈
 志光院善行日信居士
 桐蔭院好葉大姉
 深入院妙禪日定大姉
 慈讓院休補日喜居士
 續善院壽塔日昌居士
 一心院是法日覺居士
 常樂院靜遊日酒居士
 良川院妙香日烈居士
 本平院實相日心居士
 本実院妙心日相大姉
 此れによつて見れば本家の分家のものらしく系統は不明であるが、戸籍簿
 簿によれば武右工門盛幸の子に三男二女あり長男が五十一歳の時一家あり
 て津山へ移つたのである。本家筋とみられる盛幸の家系を示せば



エバソソト
 寝具一式

中山ふとく店

吉備町本町 電話三五番

満喜 天保元年七月廿四日生
 急三郎
 智志 安政二年十月八日生
 哲治郎

産地直賣店
 薪炭卸小売

吉備町栄町
 西平薪炭店
 電話 39,乙